

令和7年度 学校評価 報告書

香川県立高松桜井高等学校

1 学校評価関係行事（別紙1）

予定どおり計画を実施できた。

2 自己評価（別紙2）

（1）目標の設定

4～5月に、昨年度の学校評価の分析に基づいて、各分掌・学年団で今年度の主な活動目標、具体的方策を検討した。それらを一覧表にまとめ、第1回学校評議員会（7月16日実施）に提示した。

（2）中間評価

9月末時点での目標達成状況等について、各分掌・学年団で中間評価を行い、年度後半の取組を検討した。

（3）年度末評価

1月末時点で、各分掌・学年団における今年度末の目標達成状況を評価し、一覧表にまとめ、第2回学校評議員会・学校関係者評価委員会（2月19日実施）に資料として提示した。

（4）自己評価の結果と今後の課題・改善策等

- ・中間評価では、24項目中、A：3、B：19、C：2であった。評価C（令和6年度は0、令和5年度は0、令和4年度は1、令和3年度は2）については、年度途中で行事計画が実施されていなかったことや、家庭の協力が成果を左右する内容であることを確認した。その上で、各分掌においては、次年度に向けた課題や改善策を意識しながら、年度後半も引き続き成果を上げられるよう取り組みを進めていくことを確認した。
- ・年度末評価は中間評価後の改善により、A：6、B：18、C：0となり、全体評価はBとした。
- ・評価について学校関係者評価委員会の委員からは、評価項目に対して課題が見当たらない点については、これをA評価として堂々と評価するべきという意見があった。特に、学校行事の調整と授業時間の確保に関しては、成果が出ており、この取り組みはA評価に値すると思われる。毎年同じように感じており、今後もこの方向性を継続することが重要である。
- ・進路意識の向上に関して、進路指導は高校生だけでなく大学生にも共通の課題である。高校生には、三年後や五年後を見据えて自分の学びを考えさせることが効果的であると感じている。また、卒業生が高校生に進路意識を伝える取り組みは非常に有効で、大学生の体験談を通じて、より具体的な進路意識を育むことができる。
- ・ユネスコスクールの防災教育に関して、多肥地区の急速な発展に伴い、地域との連携強化が求められている。この学校のスクールポリシー「創生、自主、共生」は防災教育の面でも有効であり、自助・共助・公助の考え方が浸透していると感じる。地域住民と共に防災訓練や活動を進めることが重要である。
- ・現在、探究活動は個人で進められているが、友達と協力し合う機会を増やすことで学びがさらに深まると考える。学校は、グループ活動やインタビュー、アンケートなどを取り入れる方法を模索しているとのことであるが、協働を通じて切磋琢磨し、問題解決能力を養うことが大切である。

3 アンケートによる評価

- (1) 実施時期 令和7年12月
- (2) 対象 全校生徒、保護者、教員
- (3) 結果 (別紙3-1・2)、(別紙4-1・2)
- (4) アンケート結果と今後の課題・改善策等

生徒アンケートでは、どの学年においても満足度と最も強い相関関係を示すのは「学校行事」である。昨年度はアンケート実施時期が感染症流行期と重なった影響か、どの学年でも「健康安全」が高い相関を示していたが、今年度はやや異なる傾向が見られた。また、1・2年生では「部活動」の相関も高い傾向がある。さらに、学年が上がるにつれて進路意識の高まりも読み取れることから、1年生の段階から進路意識を高める取り組みが今後の課題である。

保護者アンケートでは、昨年度同様、全学年の保護者において「教育相談」が満足度と高い相関を示している。一方で、どの学年の保護者も「部活動」の評価は平均値が最も高いものの、満足度との相関はそれほど高くない。具体的には、1年生保護者の満足度は「進路指導」に表れる傾向がある。2年生保護者の満足度は「健康安全」に表れる傾向がある。3年生保護者の満足度は「進路指導」に表れる傾向がある。

これらの結果から、教育相談や進路指導、健康安全など、学年に応じた重点的な対応が今後の改善策として重要であることが示唆される。

4 授業評価

- (1) 実施時期 令和7年7月
- (2) 結果 (別紙5-1・2)
- (3) 結果と今後の課題・改善策等

ほとんどの教科において、「主体的に学ぶことができた」「できる(わかる)ことが増えた」の評価で「5:あてはまる」または「4:いくらかあてはまる」とした割合は概ね9割前後であり、授業への取り組み姿勢が良好で、授業のねらいが達成されていると考えられる。特に体育や芸術などの実技教科では、「主体的に学ぶことができた」と評価した生徒が学年を問わず50%以上(国語、地歴公民、数学、理科、英語では31~54%)に達しており、生徒が主体的に学んでいる様子がうかがえる。

一方で、教員が学習指導要領で定義する「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる」という意味での「主体的な学び」と、生徒が考える「主体的な学び」との間にずれが見られることもある。このため、学習指導要領に示される「主体的な学び」を実現できるよう、引き続きICT機器等の活用を進めながら授業研究に取り組む必要がある。

令和7年度入学生から、生徒各自がタブレット端末を購入し日々の学習に活用することになったこと(2・3年生は貸与)、また1年生と2年生の全ホームルーム教室に電子黒板が設置されたこと(令和8年度には3年生にも設置予定)に加え、生徒がICTを利用する授業に対して高い評価をしていることから、全学年で授業におけるICT活用の一層の推進が求められている。ICT活用に関しては、ルールやマナー、管理上の課題もあるため、多方面からの継続的な研究が必要である。今後もハード面・ソフト面の両面で考察を続け、授業評価・改善につなげていきたい。

5 学校関係者評価

学校関係者評価委員会を開催し、意見をいただいた。

- (1) 委員 学校評議員 4名 P T A役員 3名（会長、副会長2名）
校長、教頭2名、事務部長、教務主任、教育研究部長 計13名
- (2) 実施期日 令和7年2月19日（木）14：00～15：30
- (3) 評価の内容 （別紙6）

6 学校評価の公表

- ・「学校評価アンケート」の結果をP T A評議員会・総会において説明した。
- ・学校評価及びその資料を学校ホームページに掲載した。

7 来年度の取り組み

- ・今年度と同様に、学校の重点目標に基づいて分掌、学年団による目標を設定し、中間（～9月）、年度末（～1月）に自己評価を行う。
- ・アンケート項目の見直しを行った上で、生徒・保護者・教員を対象に学校評価アンケートを行う。
- ・上記の資料をもとに、年度末に学校関係者評価を行い、次年度の改善に活かす。
- ・学校評価関係行事、分掌等の目標、学校評価結果等をホームページに掲載し、情報公開に努める。

令和 7 年度 学校評価関係 年間計画

月	自己評価 (分掌・学年団)	アンケートによる評価 (生徒・保護者・教員)	学校関係者評価	その他
4	各分掌等の 重点目標等の策定			4/24 体育祭 4/30 PTA 評議員会①
5	職員会議で 全職員に提示			5/9 PTA 総会 5/9 公開授業
6				6/25 学校新聞[号外]
7		授業評価アンケート (生徒)	7/16 第 1 回学校評議員会	7/14 PTA 評議員会②
8		アンケート結果を 職員会議に提示		
9	中間評価			9/5-6 文化祭
10	職員会議で 全職員に提示			10/6 学校新聞[91 号] 10/27-31 公開授業週 間
11				
12		学校評価アンケート (生徒・保護者・教員)		
1	年度末評価 全職員に提示	アンケート結果を 職員会議に提示		1/20 PTA 評議員会③
2	評価結果の取りまとめ アンケートおよび自己評価結果の総括		2/19 第 2 回学校評議員会兼 学校関係者評価委員会	
3	次年度の課題や取組等について検討			3/5 学校新聞[92 号] 評価結果の公表

※各項目とも「5」が「おおいにあてはまる」、「1」が「全くあてはまらない」

設問項目	1年全体			
	人数	平均	標準偏差	対13相関
13 総合的に判断して、本校での学校生活に満足している。	258	3.94	0.96	1.00
4 目的意識を持って自主的に行動することができている。	256	3.70	0.89	.52
5 自分の将来や進路を考え、その実現に向けて行動できている。	263	3.36	1.03	.36
6 校内を美しく保つよう、積極的に清掃に取り組んでいる。	263	4.08	0.85	.44
7 学習方法を工夫しながら計画的に学習に取り組んでいる。	251	3.40	1.06	.57
8 社会生活や交通のルール・マナーを守ることができている。	252	4.37	0.77	.39
9 人権を意識した、他者を気づかう言動が取れている。	260	4.16	0.85	.41
10 学校行事に積極的に取り組んでいる。	249	4.23	0.94	.46
11 部活動に積極的に取り組んでいる。（加入者のみ）	232	4.54	0.86	.51
12 自分の健康や安全に配慮した行動がとれている。	266	4.06	0.98	.47

設問項目	2年全体			
	人数	平均	標準偏差	対13相関
13 総合的に判断して、本校での学校生活に満足している。	270	4.17	0.79	1.00
4 目的意識を持って自主的に行動することができている。	269	3.68	0.95	.49
5 自分の将来や進路を考え、その実現に向けて行動できている。	262	3.57	0.94	.30
6 校内を美しく保つよう、積極的に清掃に取り組んでいる。	269	3.89	0.92	.24
7 学習方法を工夫しながら計画的に学習に取り組んでいる。	268	3.56	0.92	.38
8 社会生活や交通のルール・マナーを守ることができている。	270	4.34	0.77	.30
9 人権を意識した、他者を気づかう言動が取れている。	269	4.12	0.87	.39
10 学校行事に積極的に取り組んでいる。	269	4.18	0.96	.60
11 部活動に積極的に取り組んでいる。（加入者のみ）	214	4.33	0.90	.51
12 自分の健康や安全に配慮した行動がとれている。	270	4.03	0.90	.56

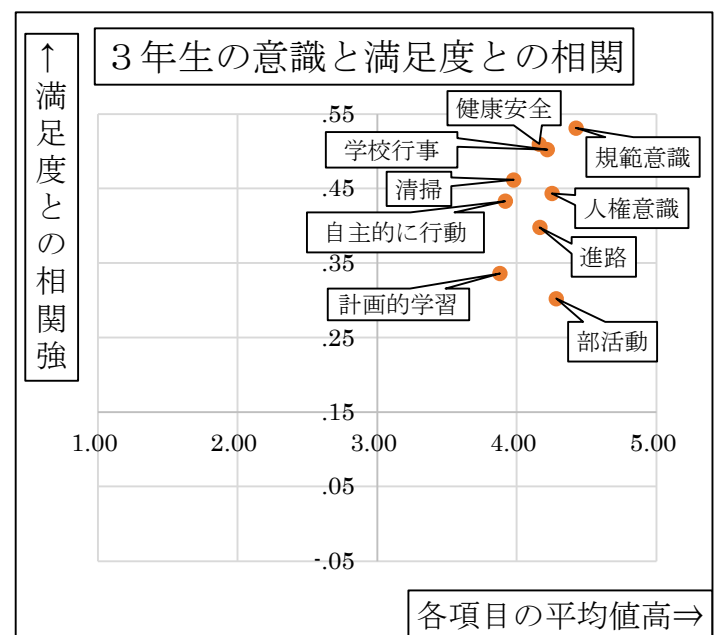
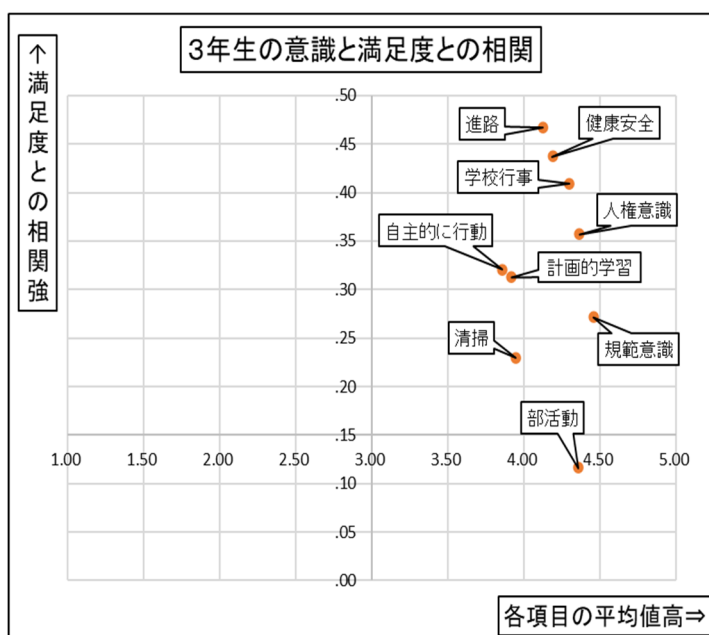
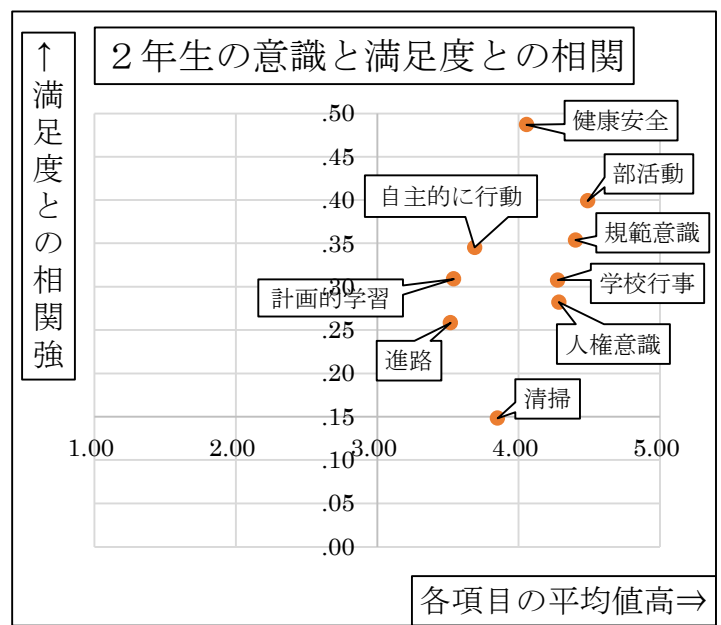
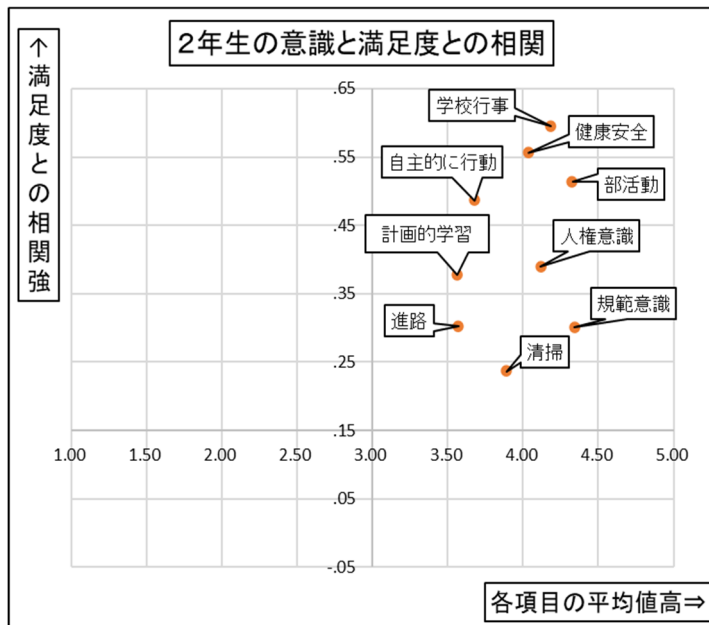
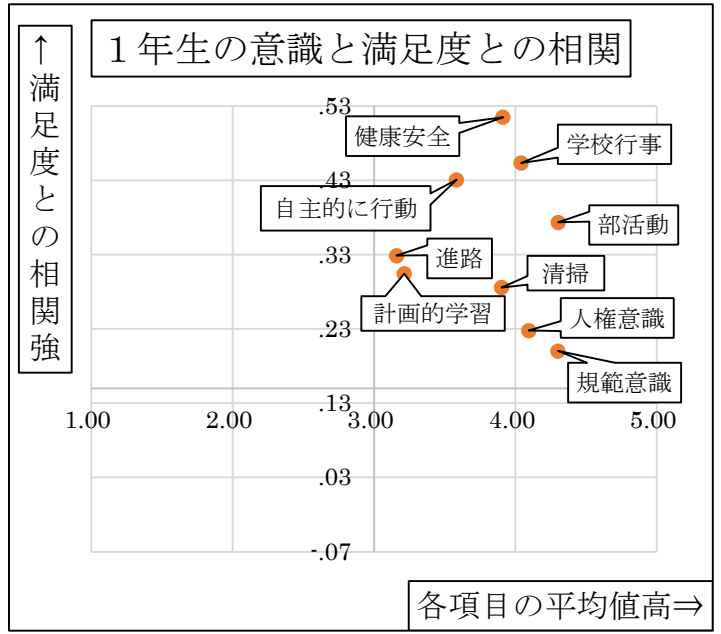
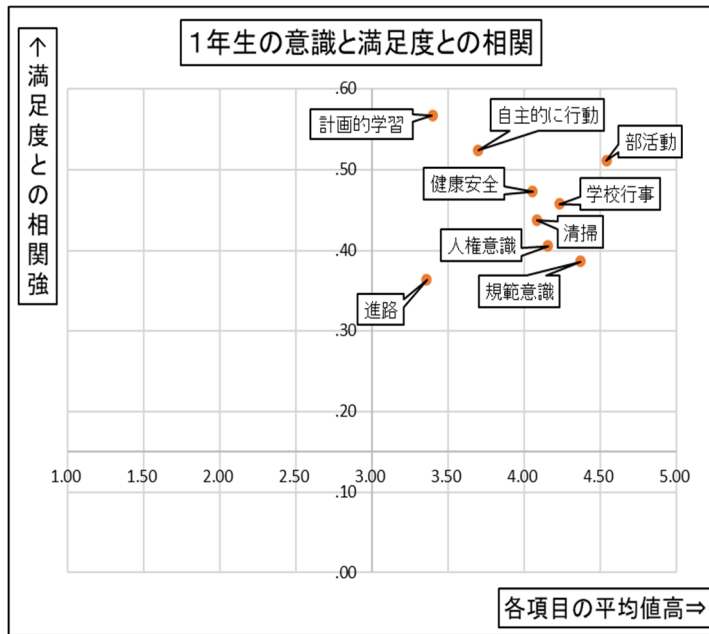
設問項目	3年全体			
	人数	平均	標準偏差	対13相関
13 総合的に判断して、本校での学校生活に満足している。	269	4.19	0.87	1.00
4 目的意識を持って自主的に行動することができている。	268	3.86	0.91	.32
5 自分の将来や進路を考え、その実現に向けて行動できている。	269	4.13	0.92	.47
6 校内を美しく保つよう、積極的に清掃に取り組んでいる。	269	3.95	0.96	.23
7 学習方法を工夫しながら計画的に学習に取り組んでいる。	269	3.92	0.97	.31
8 社会生活や交通のルール・マナーを守ることができている。	269	4.46	0.67	.27
9 人権を意識した、他者を気づかう言動が取れている。	269	4.37	0.72	.36
10 学校行事に積極的に取り組んでいる。	269	4.30	0.83	.41
11 部活動に積極的に取り組んでいる。（加入者のみ）	78	4.36	0.82	.12
12 自分の健康や安全に配慮した行動がとれている。	268	4.19	0.86	.44

次ページの表の見方について

- ・横軸は各学年、各項目の平均値で、右の 5.0 が「おおいにあてはまる」、左の 1.0 が「全くあてはまらない」である。
- ・縦軸は「総合的に判断して、本校での学校生活に満足している」項目との相関が高いものが上に来ている。例えば、今年度の3年生では、「自分の将来や進路を考え、その実現に向けて行動できている」で「おおいにあてはまる」を選んでいる生徒の「学校生活満足度」が高く、「全くあてはまらない」を選んでいる生徒が「学校生活満足度」が低いという傾向にある。つまり、3年生の「満足度」は「進路」に最もよく表れていると言える。
- ・昨年度との比較については、同一学年での比較に加え、昨年の1年生が2年生に、2年生が3年生になってどう変わったかという、昨年度からの変化として見ることも可能である。

令和7年度　分掌等自己評価(今年度の目標)						香川県立高松桜井高等学校		別紙2		
スクール ミッション 教育方針		「創生・自主・共生」の校訓のもと、個に応じた教育活動を通して、確かな学力と、他者を思いやる心、地域社会に貢献する志を持った、国内外で活躍できるグローバルな人材を育成します。 (1)大学進学を見据えた教育課程の編成と、確かな基礎学力の養成と探究的な学習活動を展開する (2)生徒が自ら主体的に学び、考え、行動する活動を重視し、多様な経験を積み重ねることによる人間的成長を促進する (3)「ユネスコスクール」として、国内外の地域や人との関わりを通じ、幅広い視野と豊かな社会性・人間性を養う (4)個を生かし、個を伸ばし、個に応じる教育により希望進路の実現を支援するとともに、変化に対応できる力を育む								
前年度の成果と課題			本年度の重点目標			具体的目標			全体評価	
・Classiを活用した遅刻・欠席連絡や、自動採点ソフトの導入により教職員の負担軽減に繋がった。 ・生成A I、電子黒板等の研修を実施するなど、I C T活用推進に向け、ハード・ソフト両面の取組を進めている。 ・教育研究では、総合的な探究の時間において、外部人材を積極的に活用し、生徒個々に相応しい進路選択や課題研究の意識づけに繋げている。 ・本校課題の明確化と共有化を図り、各分掌・学年団の目標設定が必要である。			・学力を確実に身に付けることを目指し、授業改善やICT活用も推進する。 ・生徒が自ら考え、協働して学びを深める授業づくりを目指す。 ・生徒指導と教育相談による生徒の問題の早期発見と教員間の情報共有を図る。 ・生徒の進路希望に応じた指導を行い、将来を見据えたキャリア形成を支援する。 ・ユネスコスクールとして地域の機関と連携して、地域社会に貢献する意識を育てる。 ・学校行事・部活動の見直しを行い、生徒、教職員の心身の健康の保持増進を図る。			・電子黒板の導入により、ICT機器を効果的に活用した授業改善を行う。 ・Classi、ロイロノート等の学習ツールを積極的に活用した授業実践に努める。 ・気になる生徒への声掛けを行い、早期発見、情報共有、早期対応に努める。 ・個人面談等を重ね、保護者の理解のもと第一志望校合格に繋げる。 ・ボランティア活動や地域行事へ参加し開かれた学校づくりに努める。 ・校務の見直しを継続的に行之、教員業務支援員を活用した負担軽減に努める。			B	
分掌等		本年度の主な活動目標		主な具体的方策		評　　価		中間評価・年度末評価における成果・課題		
						中間	年度末			
1	教　　務	行事等の調整を行いながら、授業時間の確保に努める。		各分掌等と協議し、学校行事を調整する。学期、曜日毎の授業時間の平均化に向け調整する。		B	B	各分掌等と協議しながら学校行事の調整を行い、授業時間の平均化を図ることができた。次年度も引き続き計画的に継続して取り組みたい。		
2		タブレット端末等を活用した授業研究や校務負担の軽減に取り組む。		他校の実施状況を情報収集し、検討する。研修を適切な時期に実施し、教員のスキルアップを図る。		B	A	ロイロノートやClassiについての研修を実施することができた。今後、授業や学校行事における保護者の出欠連絡等での更なる活用が期待できる。		
3	教育研究	生徒の「課題研究」のレベルアップを図る。		学問探究の切り口を学び、論文に触れ、「なぜ」を深めていく。		B	B	プレゼンテーションスキルがレベルアップし、主体的に研究を深める生徒がいる一方、自身で「なぜ」を深めさせるには根気強い指導が必要である。		
4		生徒自身の興味・関心に基づき、卒業後の進路を適切に選択できるようにする。		志向性を図る調査や外部講師も活用し、進路実現に向けて自分に合った学習法を定着する。		B	A	外部講師や多様な職業人を招き対話することで、職業選択を考える機会をもてた。授業を大切にする姿勢が将来に繋がることを意識させたい。		
5	進路指導	「思考力・判断力・表現力」を養成し、入試に備えた学習指導を徹底する。		各教科と連携し、基礎的な学力を確実に身に付けさせる。自ら学ぶ意欲や姿勢、態度を身に付けさせる。		B	B	定期考査や校外模試等を活用して基礎的な学力の定着や応用力の育成を図った。生徒のITスキルを向上させ、学ぶ意欲を向上させたい。		
6		3年生に対し、志望校を十分に検討させ、第一志望合格の実力を養成する。		個人面談を随時行い、適切な志望校選択に導く。日頃の生活・学習指導、受験対策や個別指導を徹底する。		B	A	個人面談等を通して、将来の職業観に基づく志望校選択や、第一志望校合格に向けた学習法や生活リズムを生徒が自主的に考えるようになっている。		
7	生徒指導	当たり前のこと（服装整備・時間を守る・挨拶等）を当たり前できるようにする。		服装検査、服装整備週間の実施、遅刻指導、登校時の校門指導、挨拶運動などを行う。		B	B	服装検査が形式的なものになることなく、日々の生活指導の一助となるようこころがけていきたい。挨拶は、自ら行える生徒が増えつつある。		
8		自転車の乗車ルール、マナーについて日常から意識を高める。		学校生活を通じた交通安全啓発（交通安全教室、自転車運転免許制度講習会、交通安全LHR等）を行う。		B	B	年間を通じて交通指導や交通安全啓発を行ってきたが、自転車による登下校中の事故は昨年度に比べ多い。事故後の対応等は確実にできている。		
9	特別活動	生徒が主体的に取り組める機会の提供と内容の充実を図る。		生徒が主体的に活動できる場を整備する。ボランティア活動の機会を提供し、多くの生徒が参加できるようにする。		B	B	昨年度よりさらに参加する生徒が増えている。校内でも清掃活動、募金活動と本校主催の多肥地区防災オリエンタリング大会にも参加した。		
10		ユネスコスクールとしての活動を充実させる。		フェアトレード、減災に関する校内活動、地域と連携した活動を充実させる。		B	B	文化祭生徒会展での展示や販売など、地元の海外支援団体と連携した活動が充実していた。また、防災行事の運営にも主体的に関わることができた。		
11	人権・ 同和教育	生徒の人権感覚を高めるために、活動を工夫する。		人権啓発運動の一環として、文化祭などで生徒作品の発表の場を設ける。		A	A	計画通り実施できた。アイヌ民族に関するLHRでは、ウポボイライブラリーでの発表や民族楽器体験を通して理解を深め、学びを得られた。		
12		教職員の人権意識を高める工夫をする。		現職教育等で人権課題について理解し、人権という視点を再確認して学級経営に取り組む。		B	B	人権だよりの発行や文化祭・じんけんういーくでの啓発活動、LHR指導等を通して、教職員自らが人権への理解を深め学習できた機会となった。		
13	教育相談	生徒の学校生活における事案の早期発見、早期対応に努める。		学校生活アンケートを実施し、現状を早期に把握、結果の分析と早期に対応を充実させる。		B	B	学校生活アンケートは計画通り実施できたが、生徒が十分な情報を記入しない状況が見られ、内容や実施方法の改善が必要であると考える。		
14		教育相談における組織的な対応・支援に努める。		把握情報を関係職員で共有し、事案の改善、回復、再発防止まで一貫した支援体制を構築する。		C	B	年間を通して一貫した組織的支援が行えるよう、常に情報共有を図りながら対応できた。生徒対象のヘルスケアも2回実施できた。		
15	保　　健	健康診断の目的を理解させ、自主的な健康管理に努めさせる。		夏休みまでに担任・部活動顧問と協力して健診後の治療を促すとともに、個別指導で治療率を上げる。		C	B	保健だよりで等で受診を勧めているが受診率は向上していない。自身の健康管理を意識し主体的に取り組めるよう今後対策を検討していきたい。		
16		救命救急に関する知識や技術を身に付け、必要な対応ができるようにする。		応急手当講習会などで知識や技術を身に付ける。保健だよりで身近な症状の対処法を周知する。		B	A	現時点では幸いにもAED使用が必要な事態は起きていないが、緊急時に適切な対応ができるよう、次年度以降も講習会を継続して実施したい。		
17	総　　務	P T A・同窓会活動の活性化を図り、教育活動への協力を求める。		P T A活動への協力を呼びかける。同窓会はHPで情報発信を積極的に行う。		B	B	総会や文化祭バザー、大学訪問等、ほぼ全ての活動が実施され、会員同士の交流の機会が増えたことで会員の感想はおおむね良かった。		
18		火災や地震等の自然災害に備えた体制づくりと校内美化に努める。		防災訓練において災害対処法を学ばせる。普段の掃除活動の活性化を図る。		B	B	清掃用具の整備を適宜行うことができるように用具の有無などの確認をした。また、防災訓練等は円滑に実施することができた。		
19	学年団	1年団	基本的生活習慣を確立し、一人一人が責任ある行動をとれるようにする。		教員間の連携を密にして、校内外のルール厳守、挨拶励行など、生活指導の徹底を図る。		B	B	挨拶・時間厳守・服装は良好である一方、携帯電話の指導回数は22件（前年同月11件）と倍増している。集会やHRで再三注意喚起を継続したい。	
20			充実した学校生活を送り、進路実現に向けた準備をさせ、次年度につなげる。		支援や配慮を要する生徒などへの細やかな生活指導、学習習慣を身に付け進路目標を立てさせる。		A	B	2学期にクラス内で不適切な行動があり、再発防止のため注意喚起と見守りを継続したい。進路目標の早期決定指導は各分掌と連携して進められた。	
21		2年団	本校の中核として自覚をもち、基本的生活習慣を確立し、責任ある行動をする。		時間厳守、挨拶励行、授業を基本とした学習習慣の確立を徹底させる。		B	B	1年次に比べ学習意欲の高い生徒が増えてきた。ただし、進路や学習に対するストレスの増加は依然として大きな課題である。。	
22			学校内外での活動を通じて、十分な学力が身につくように支援する。		教育研究・進路指導部と連携し、確かな学力を身に付けさせる。教育相談と連携して細やかな対応を行う。		B	B	支援や配慮を要する生徒に対しては、学年団と教育相談部等が連携し、迅速かつ丁寧な対応が行えたと思われる。	
23		3年団	最上級生(新成人)にふさわしい品格・社会性を持った人物を育てる。		基本的生活習慣を確立し、集団生活の中で、責任ある行動ができる態度を身に付けさせる。		B	B	学年集会やLHR・個別面談など多様な機会を設け、学業以外の面でも粘り強く指導する必要性を改めて実感した。	
24			進路目標を実現するための適切な学習指導・進路支援を行う。		最新の進路情報を周知し、学習状況・進路希望を把握し、心のケアも継続的に行う。		A	A	2学期末時点で、学校推薦や総合型選抜により42名の生徒の進路が決定している状況である。	

※「中間評価」：9月末時点での達成状況　「年度末評価」：1月末時点での年度末最終達成見込み　A＝「良く成果をあげた」　B＝「成果があがった」　C＝「あまり成果がなかった」



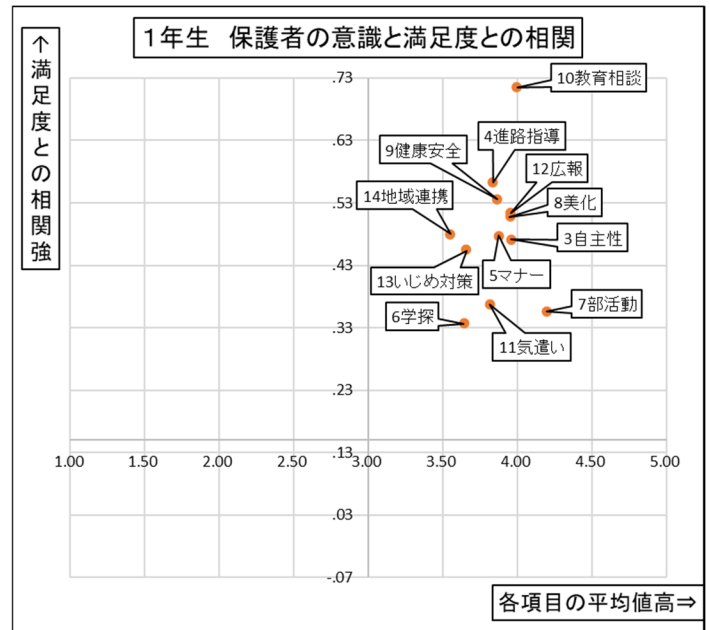
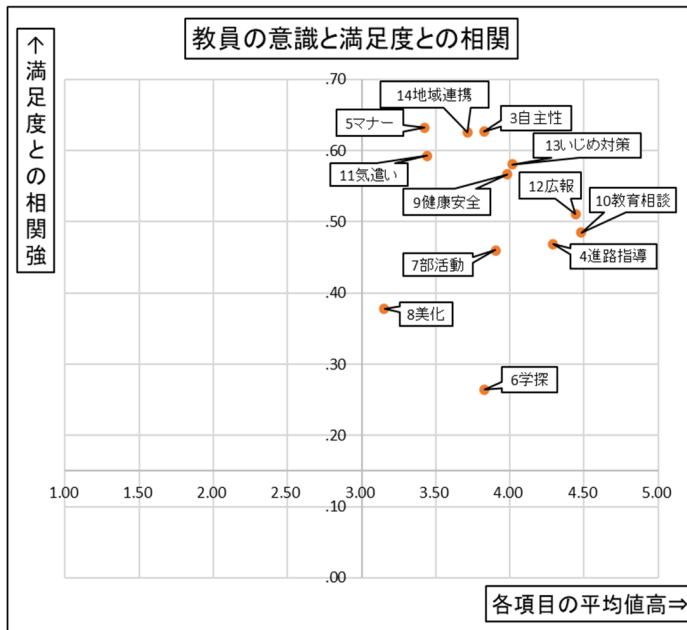
※各項目とも「5」が「おおいにあてはまる」、「1」が「全くあてはまらない」

設問項目	教職員			
	人数	平均	標準偏差	対15相関
15 総合的に判断して、本校の教育活動(運営)に満足している。	52	4.06	0.67	1.00
3 学校行事を通じて生徒に自主性が育ってきている。	52	3.83	0.58	.63
4 生徒それぞれの進路目標に応じた進路指導が行われている。	52	4.29	0.70	.47
5 生徒に社会生活に必要な行動・マナーが身につけてきている。	52	3.42	0.78	.63
6 生徒は「学探」での発表や課題研究に積極的に取り組んでいる。	52	3.83	0.83	.26
7 部活動を通しての生徒の人的成長を感じる。	52	3.90	0.85	.46
8 環境美化活動が充分に行われ、校舎内など美しく保たれている。	52	3.15	0.89	.38
9 生徒の健康・安全を維持・向上させるための活動が行われている。	52	3.98	0.73	.57
10 学校は生徒や保護者からの教育相談にしっかりと対応している。	52	4.48	0.58	.49
11 生徒は、他者を気づかう言動がよりいっそうとれるようになった。	52	3.44	0.73	.59
12 学校新聞や広報誌、HP等により情報発信の充実に努めている。	52	4.44	0.67	.51
13 いじめの防止や、早期発見・対応のための取組が行われている。	52	4.02	0.80	.58
14 生徒は地域と連携した行事や清掃活動等に積極的に参加している。	52	3.71	0.98	.63

設問項目	1年生 保護者			
	人数	平均	標準偏差	対15相関
15 総合的に判断して、本校の教育活動(運営)に満足している。	249	4.06	0.78	1.00
3 学校行事を通じて生徒に自主性が育ってきている。	249	3.96	0.76	.47
4 生徒それぞれの進路目標に応じた進路指導が行われている。	249	3.84	0.74	.56
5 生徒に社会生活に必要な行動・マナーが身につけてきている。	248	3.88	0.69	.48
6 生徒は「学探」での発表や課題研究に積極的に取り組んでいる。	249	3.64	0.79	.34
7 部活動を通しての生徒の人的成長を感じる。(加入者のみ)	228	4.20	0.78	.36
8 環境美化活動が充分に行われ、校舎内など美しく保たれている。	249	3.95	0.81	.51
9 生徒の健康・安全を維持・向上させるための活動が行われている。	249	3.86	0.70	.54
10 学校は生徒や保護者からの教育相談にしっかりと対応している。	247	4.00	0.72	.71
11 生徒は、他者を気づかう言動がよりいっそうとれるようになった。	249	3.82	0.77	.37
12 学校新聞や広報誌、HP等により学校は情報発信の充実に努めている。	249	3.95	0.77	.51
13 いじめの防止や、早期発見・対応のための取組が行われている。	248	3.66	0.74	.45
14 生徒は地域と連携した行事や清掃活動等に積極的に参加している。	249	3.55	0.85	.48

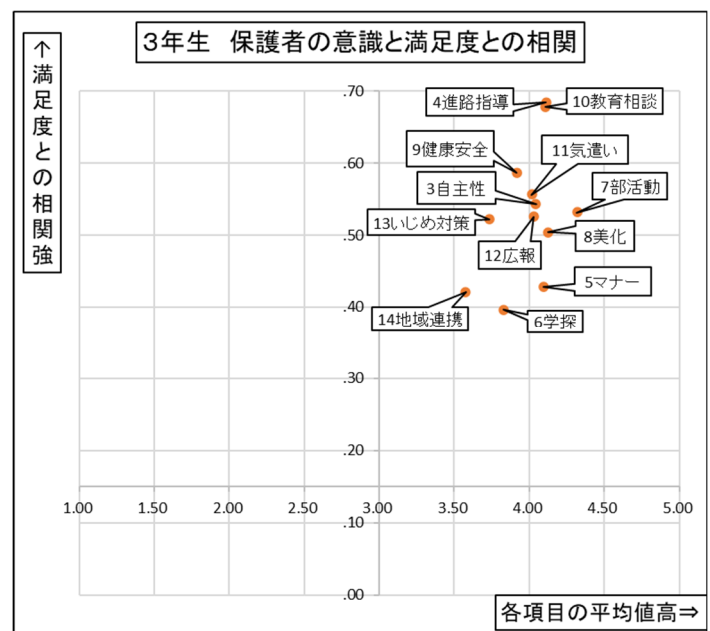
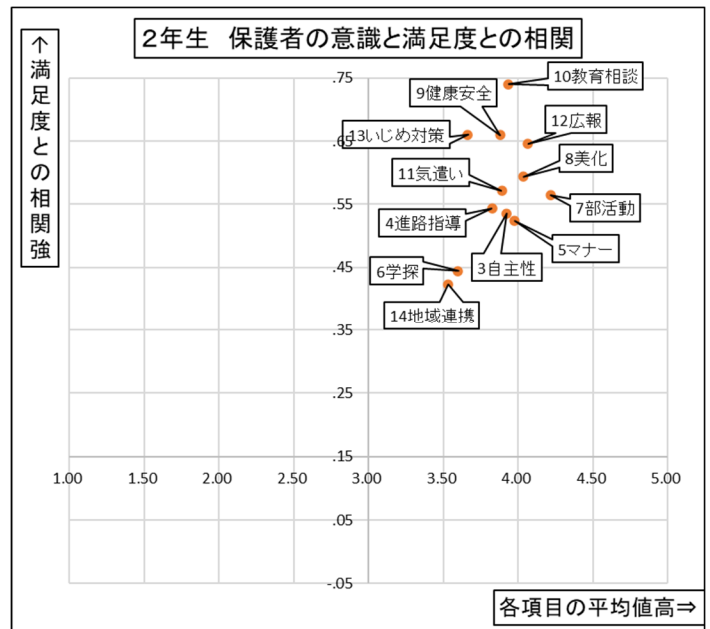
設問項目	2年生 保護者			
	人数	平均	標準偏差	対15相関
15 総合的に判断して、本校の教育活動(運営)に満足している。	212	4.08	0.74	1.00
3 学校行事を通じて生徒に自主性が育ってきている。	212	3.92	0.77	.53
4 生徒それぞれの進路目標に応じた進路指導が行われている。	212	3.83	0.83	.54
5 生徒に社会生活に必要な行動・マナーが身につけてきている。	212	3.98	0.70	.52
6 生徒は「学探」での発表や課題研究に積極的に取り組んでいる。	212	3.60	0.85	.44
7 部活動を通しての生徒の人的成長を感じる。(加入者のみ)	178	4.22	0.82	.56
8 環境美化活動が充分に行われ、校舎内など美しく保たれている。	212	4.04	0.83	.59
9 生徒の健康・安全を維持・向上させるための活動が行われている。	211	3.88	0.78	.66
10 学校は生徒や保護者からの教育相談にしっかりと対応している。	212	3.93	0.83	.74
11 生徒は、他者を気づかう言動がよりいっそうとれるようになった。	212	3.89	0.88	.57
12 学校新聞や広報誌、HP等により学校は情報発信の充実に努めている。	211	4.07	0.81	.65
13 いじめの防止や、早期発見・対応のための取組が行われている。	212	3.67	0.84	.66
14 生徒は地域と連携した行事や清掃活動等に積極的に参加している。	212	3.53	0.96	.42

設問項目	3年生 保護者			
	人数	平均	標準偏差	対15相関
15 総合的に判断して、本校の教育活動(運営)に満足している。	243	4.23	0.73	1.00
3 学校行事を通じて生徒に自主性が育ってきている。	243	4.05	0.72	.54
4 生徒それぞれの進路目標に応じた進路指導が行われている。	242	4.11	0.80	.68
5 生徒に社会生活に必要な行動・マナーが身につけてきている。	243	4.09	0.72	.43
6 生徒は「学探」での発表や課題研究に積極的に取り組んでいる。	243	3.83	0.81	.40
7 部活動を通しての生徒の人的成長を感じる。(加入者のみ)	216	4.32	0.76	.53
8 環境美化活動が充分に行われ、校舎内など美しく保たれている。	243	4.12	0.76	.50
9 生徒の健康・安全を維持・向上させるための活動が行われている。	243	3.92	0.71	.59
10 学校は生徒や保護者からの教育相談にしっかりと対応している。	243	4.11	0.83	.68
11 生徒は、他者を気づかう言動がよりいっそうとれるようになった。	243	4.02	0.74	.56
12 学校新聞や広報誌、HP等により学校は情報発信の充実に努めている。	243	4.03	0.75	.53
13 いじめの防止や、早期発見・対応のための取組が行われている。	243	3.73	0.72	.52
14 生徒は地域と連携した行事や清掃活動等に積極的に参加している。	243	3.58	0.98	.42



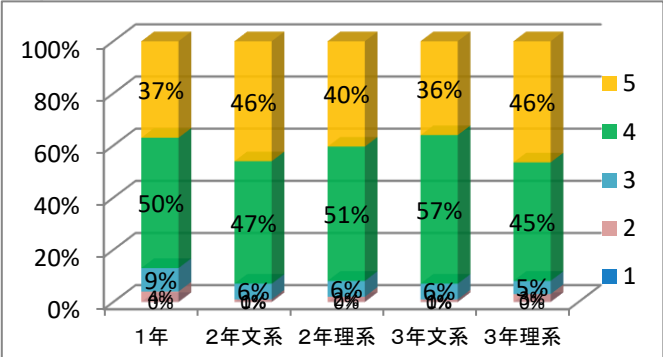
表の見方

- ・教員と保護者が同じ項目でアンケートをとり、比較できるようにしている。
- ・横軸は各項目の平均値で、最も右の5.0が「おおいいにあてはまる」、最も左の1.0が「全くあてはまらない」である。
- ・縦軸は「総合的に判断して、本校の教育活動（運営）に満足している」項目との相関が高いものが上に来ている。全学年の保護者で、「10 教育相談」に相関の高さがみられる。
- ・前ページ記載の数値から、全学年の保護者で「7 部活動」の平均値が最も高くなっていることがわかる。しかし、「満足」度との相関はそれほど高くない。教育相談以外では、1年生保護者の「満足」度は「4 進路指導」に、2年生保護者の「満足」度は「9 健康安全」や「13 いじめ対策」に、3年生保護者の「満足」度は「4 進路指導」に表れていることが読み取れる。

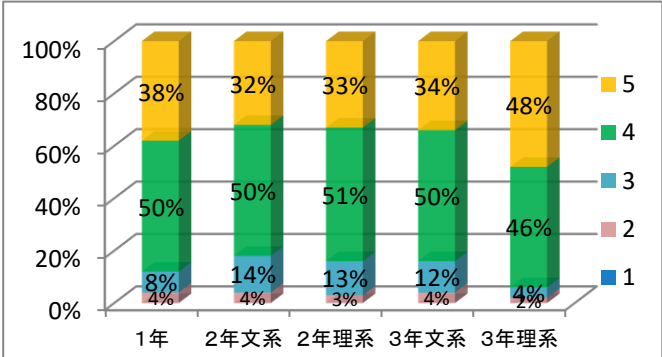


質問1 私は、自主的に学ぶことができていた。

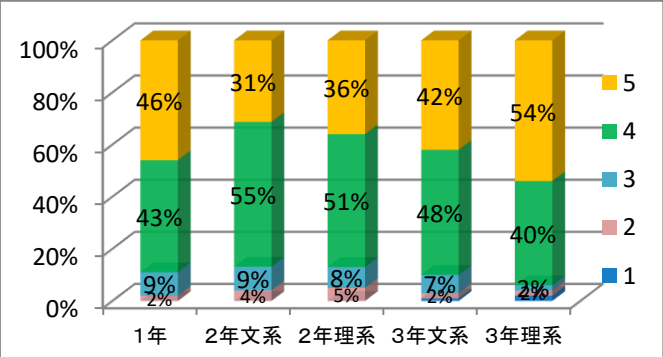
国語



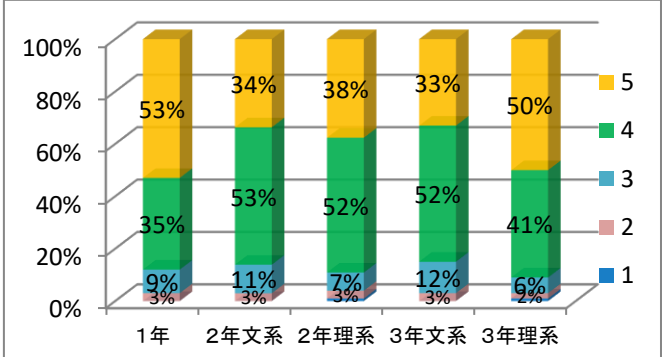
地歴公民



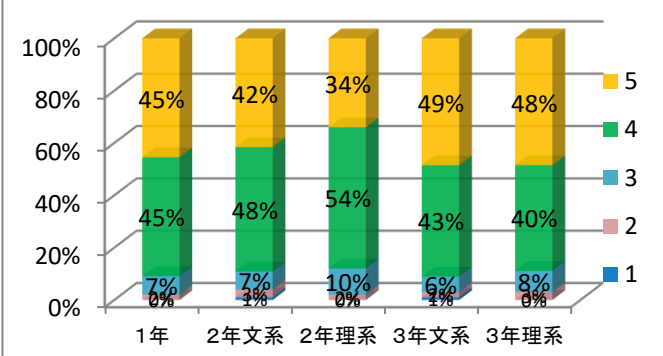
数学



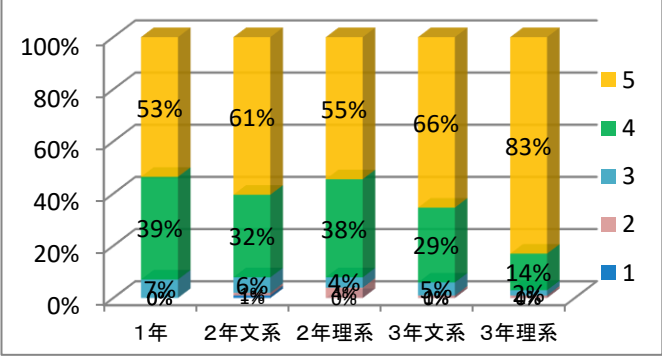
理科



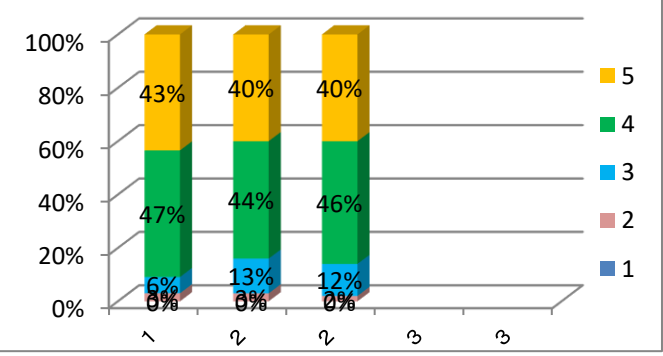
英語



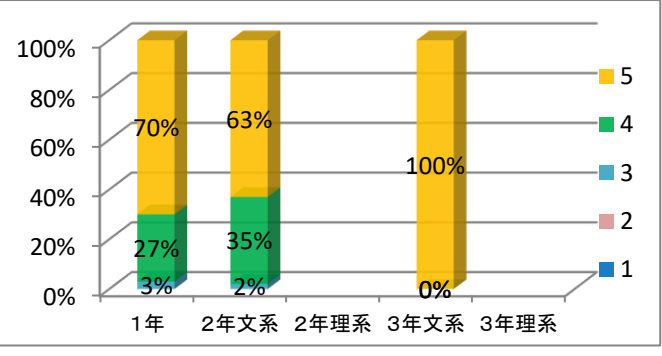
体育



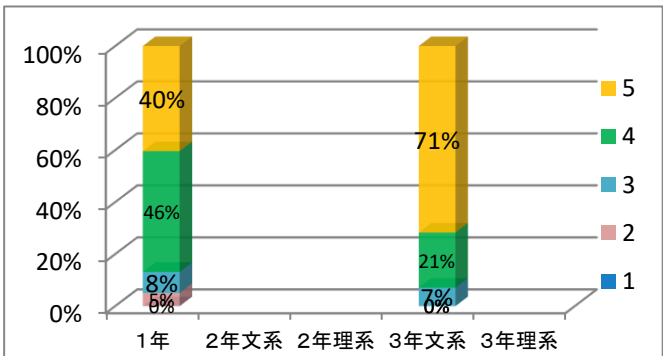
保健



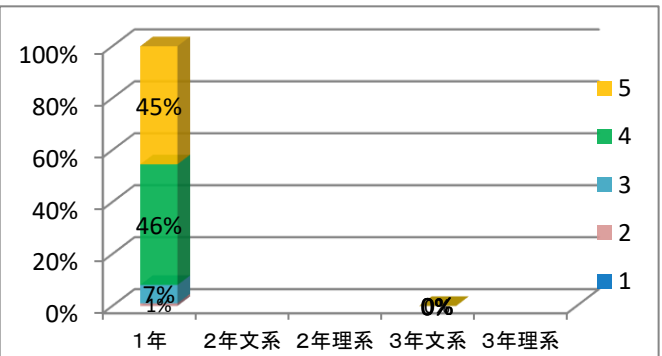
芸術



家庭



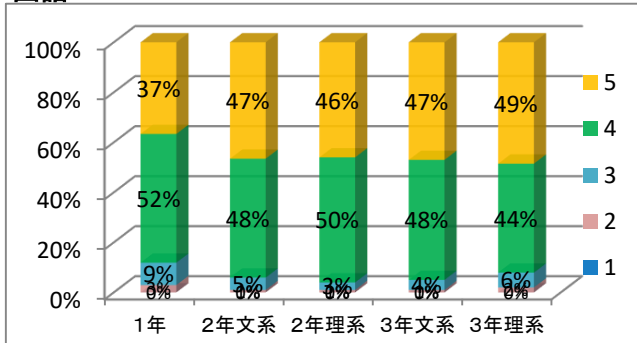
情報



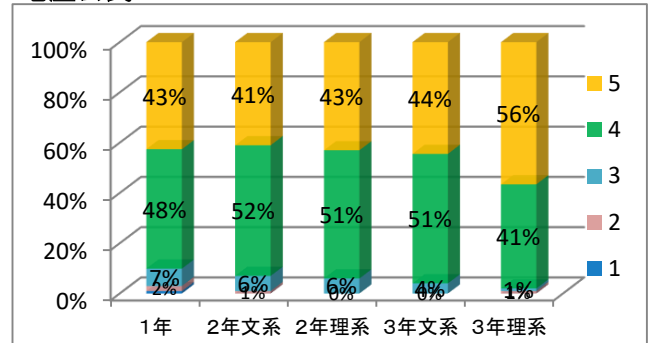
5: あてはまる, 4: いくらかあてはまる, 3: どちらでもない, 2: あまりあてはまらない, 1: あてはまらない

質問2 私は、当該科目の授業をきっかけにして、できる(わかる)ことが増えた。

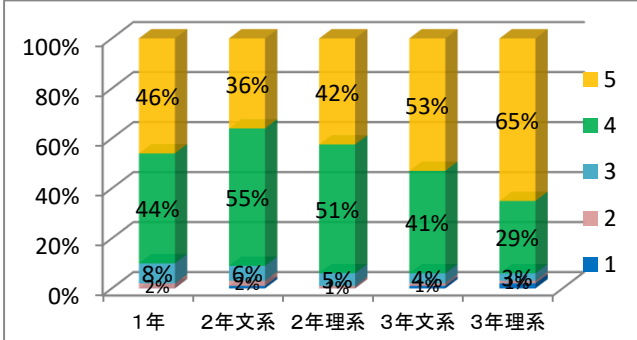
国語



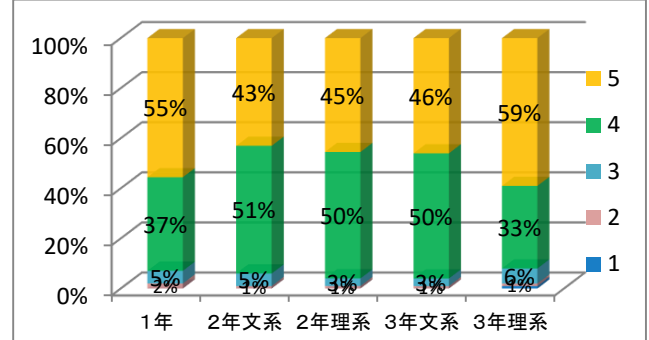
地歴公民



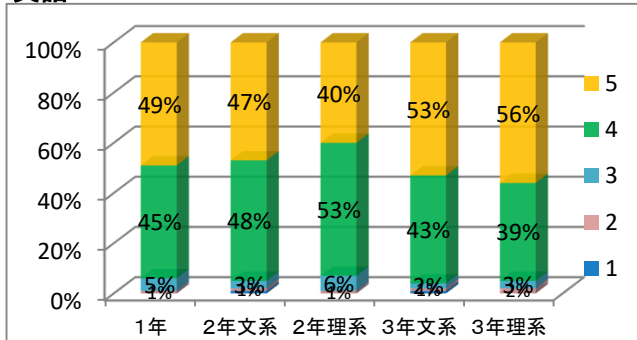
数学



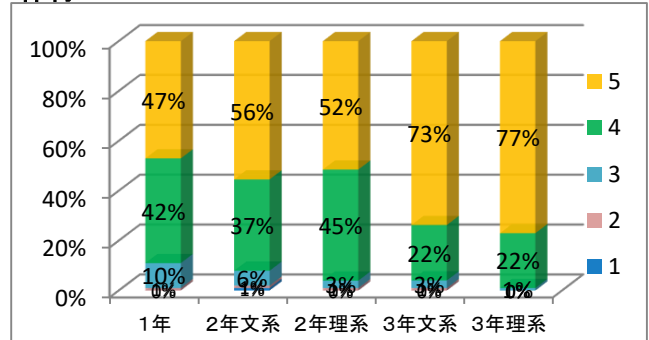
理科



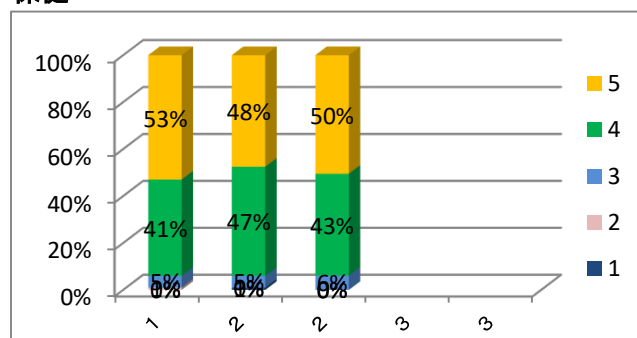
英語



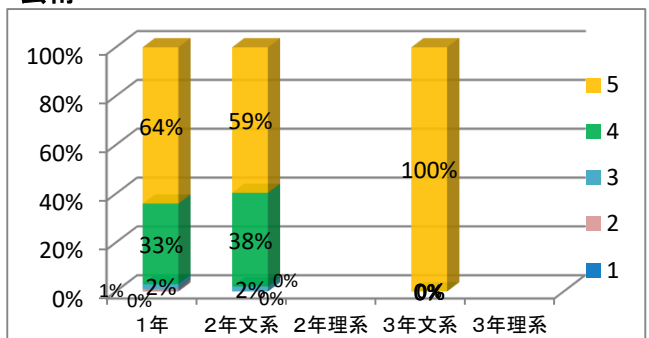
体育



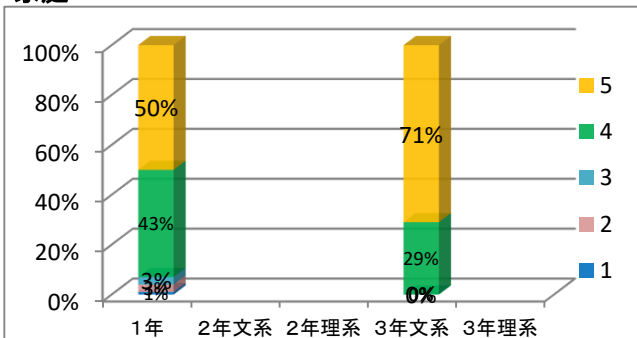
保健



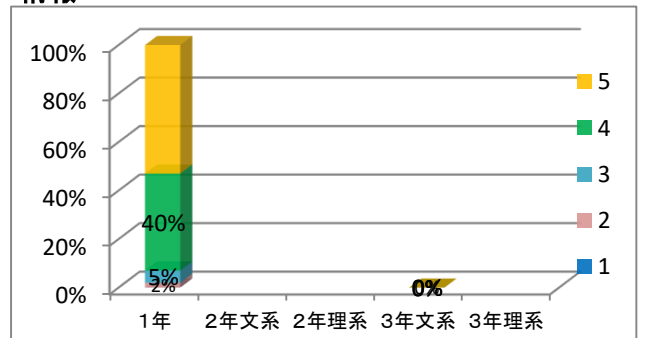
芸術



家庭



情報



5: あてはまる, 4: いくらかあてはまる, 3: どちらでもない, 2: あまりあてはまらない, 1: あてはまらない

令和7年度 学校関係者評価委員会（兼 第2回学校評議員会）会議録

1. 日 時 令和8年2月19日（水） 14:00～15:30
2. 会 場 高松桜井高等学校 校長室
3. 出席者 学校評議員 4名 PTA役員 3名（会長、副会長2）
学校 6名（校長、教頭2、事務部長、教務主任、教育研究部長） 計13名
- 欠席者 PTA役員 1名

4. 内 容

（1）現況報告とスクールミッション・スクールポリシー〔校長〕

（2）主な行事報告と行事予定〔教務主任〕

（3）学校評価関係行事報告

- ・分掌等自己評価〔教頭〕
- ・アンケートによる評価（保護者、生徒、教職員）〔教育研究部長〕
- ・生徒授業評価〔教育研究部長〕

（4）質疑応答（抜粋）

（委員）教育業界の一員として、常に同じ意見を述べているが、B評価とされている点について、いくつかはA評価にしても良いのではないかと考えている。例えば、1から24まで番号が付けられた項目の中で、先頭に位置するものについてだが、私は課題が見当たらない。目標が学校行事等の調整を行いながら授業時間を確保することであり、その成果も出ている。したがって、学校行事の調整と授業時間の平均化の取り組みが実現している以上、評価はAであるべきだと考える。この点については、毎年同じように感じている。

また、進路に関する意識についてだが、これは高校だけでなく大学でも同様の課題がある。大学では、学生に五年後や十年後の自分を想像させ、そのために大学で何を学ぶべきかを考えさせる。高校生にも、三年後や五年後の自分を意識させ、なぜ高校で学ぶべきかを考えさせることが教育効果が高いと感じる。

卒業生が高校生に進路の意識を持たせるために応援する取り組みは素晴らしい。大学でも同様の取り組みがあり、大学生が高校生に自分たちの経験を話すことで説得力が増す。高松桜井高校が非常に人気のある学校であることも、1.2倍の倍率という高い数字からも感じ取れる。

最後に、ユネスコスクールに関して、防災意識の重要性を感じる。特に多肥地区は急速に発展しており、地域の防災意識を高めることが大切である。この学校のスクールポリシー「創生、自習、共生」も防災に照らし合わせて非常に重要であり、自助、共助、公助の考え方が育まれていると感じる。

（委員）探究の時間で個人の課題を設定し、それを探究するという話があったが、一年間のゴールはどのように設定されているのか、具体的に教えてほしい。

（学校）最終的には、すべての生徒が一つの論文を作成し、発表することがゴールである。論文の発表は3年生の6月または7月に行われる。しかし、高校では中学までの学び方と異なり、新たな学び方を指導している。その過程で、各界で活躍する方々を招き、将来につながる考え方を育てている。テーマや問いを1年生のうちに決め、2年生でそれを深め、3年生で発表するという流れで進めている。各学年のゴールは、探究テーマの設定、リサーチクエスションの明確化、そして最終的な発表である。

(委員) 自分の学びが深まる中で、友達と協力して問題解決に取り組むような活動があれば、より良いと思う。探究活動の中で協働や切磋琢磨の機会を増やすことが重要ではないか。

(学校) 現在は個人で探究を行っているが、友人と協力して研究を深めたり、インタビューやアンケートを通じてグループ活動を取り入れる方法を模索している。

(委員) ユネスコスクールにおける防災オリエンテーリングの取り組みは素晴らしい。地域との連携を強化し、多肥地区の行事とタイアップできれば、更に充実した活動が展開できるのではないと思う。地域の人々も期待していることが伝わっている。小学校の五年生が防災を学ぶ中で、高校と連携して活動できると良いと思う。

(学校) ありがとうございます。今後、多肥地区との連携を進め、地域とともに取り組みを充実させていきたいと考えている。

(委員) 防災訓練についても、三年に一度の大きな訓練があり、その際に高松桜井高校と地域が連携することができれば、更に強固な地域防災の体制を作ることができるだろう。

(委員) 進路については、特に専門職において、研究と実践を繰り返していく必要があるが、就職後は向上心を失ってしまう場合が多い。そのため、目標を持ち、自主性を養うことが重要である。進路の指導が、若い段階からの研究熱心さや探究心を育むことに繋がる。先生方には、そのような方向性を強化していただきたい。

また、学校評価において、先生方は進路指導に高い評価をつけているが、保護者にはその評価が十分に伝わっていないのではないかとという点についても触れておきたい。保護者の評価が低くないが、まだ改善の余地があるのではないかと感じている。

(委員) 飲食店を経営しており、高校生のアルバイトを見ている中で感じることもある。特に、大人と話し、自分の意見を伝えることができるかどうかを重視している。高校生には、大人とのコミュニケーションを通じて、自分の進路や将来のビジョンを見つける機会を増やすべきだと思う。これが「トーク×トーク×トーク」の取り組みの良さにも繋がる。

また、教育の中で、タブレットや電子黒板に頼り過ぎることの弊害についても触れた。紙に戻すことが学習の定着や集中力に良い影響を与えるという意見もあるため、手書きの論文作成などを取り入れる価値がある。

(委員) 高松桜井高校周辺の住民として、地域と高校のつながりが強化されることを望んでいる。特に防災訓練や地域活動において、地域と学校が協力していければ、住民としても安心感を持てる。近年、性被害に関する事案も増えているため、学校としての対応を一層強化し、早期に問題に対応することが重要である。

(学校) 進路指導や地域連携に関する貴重なご意見、ありがとうございます。今後も生徒たちの成長と地域とのつながりを深めていくために、引き続き努力してまいります。

(学校) 本日は貴重なご意見をいただきありがとうございました。これからも皆様のご協力をいただきながら、より良い教育環境を作り上げていきたいと考えております。

(以上)